



TITLE:

外傷性股關節下方脱臼ノ整復ニ就  
テ

AUTHOR(S):

千葉, 忠恕

---

CITATION:

千葉, 忠恕. 外傷性股關節下方脱臼ノ整復ニ就テ. 日本外科宝函 1928,  
5(2): 471-472

ISSUE DATE:

1928-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200114>

RIGHT:

## 外傷性股關節下方脫臼ノ整復ニ就テ

醫學博士 千葉 忠 恕

股關節脫臼殊ニ其ノ下方脫臼ナルモノハ極メテ稀ナモノト云ハレテ居ル。予ハ最近四十歳男子デ牛車ノ下敷トナツテ引キ摺ラレタ爲メニ左側股關節脫臼ヲ起シ、接骨醫ノ治療ヲ受ケテ居タガ、股關節並ニ膝關節ノ屈曲位ヲ執レルガ爲メニ歩行不可能ト云フ事デ來院シタ者ヲ診タ。其レハ受傷後既ニ約三週間ヲ經過セルモノデアルガ、臨床上ニモ、線寫眞ヨリスルモ立派ナル下方脫臼ノ所見ヲ呈シテ居ル。本患者ハ大男デ然カモ强健ナル筋肉ノ持主デアル勞働者デアツタガ、腰推麻酔ノ下ニ筋肉ハ整復ニ極メテ都合ヨキ弛緩狀態ニスルコトヲ得タ。然シ整復ヲ試ムル段ニナツテ種々ノ方法ニヨルモ容易ニ目的ヲ達スルコトガ出來ヌ。即チ骨頭ハ髀臼下ヲ前後ニ移動シテ前方ニ滑ルト、閉鎖孔脫臼ニ移行セントシ、後方ニ滑ルト、坐骨脫臼ノ狀態トナリ、骨頭ヲ還納セシメンガ爲メニ大轉子乃至骨頭部ヲ舉上セシムベク、助手ヲシテ或ハ手掌ヲ用ヒテ押シ上ゲサセ、或ハ足蹴ヲ以テ踏ミ上ゲサセ、或ハ木枕ヲ大轉子部ニ當テ見ル等色々ナ努力モ効ヲ奏セズ。

曾テ經驗セル他ノ後方脫臼ノ例ニ比較シテ頗ル手古摺ラサレタガ、遂ニ仰臥位ニシテ骨盤ヲ固定セシメ置ケル患者ノ脚間ニ術者ハ立テ膝ヲナシツ、己レノ膝頭ヲ以テ大轉子部ニ近キ大腿後方ニアテ下ヨリ押シ上ゲル心持チデ之レヲ支ヘ乍ラコツヘル氏法ヲ以テ整復術ヲ試ミル際、下肢ノ外轉、外旋ヨリ伸展位ニ移ル瞬間ニ膝頭ヲ以テ脫臼セル骨頭ヲ臼窩ニ押シ込ム様ニセルニ一種ノ音ヲ發シテ極メテ容易ニ然カモ完全ニ整復スルコトガ出來タ。

此ノ方法ニ依ル時ハ、骨頭ノ直接壓迫並ニ患肢伸展等ノ操作ヲ自分一人デスル事が出來ルノデ甚ダシク力ヲ加フルニ便利デアルノミナラズ極メテ合理的ニ施スコトガ出來ル様ニ思ハレル。尙ホ此際ノ腰推麻酔ハ實ニ有リ難キ麻酔法ダト思フ

由來外傷性脱臼殊ニ股關節ナドノモノハ多クハ接骨醫ニ走ル爲メカ吾人外科醫ニ來ルモノハ稀ニ有ツテモ觀血の整復ヲ餘義ナクセラル種類ノモノデアツテ、無觀血の整復ニ屬スルモノハ極メテ少イ様ニ考ヘラルガ。軍隊外科ナドノ經驗アル方デハ予ノ試ミタ方法ノ如キハ既ニ試ミテ居ラルカモ知レナイガ、兎モ角爰ニ報告スルコトニシタ。